

事業実施主体名:佐渡地区農山漁村体験推進協議会

令和6年7月17日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
新潟県 佐渡市	R元	農泊推進事業 (グリーンツーリズム、特に農村ホームステイ・農家民宿での受入体制の整備)	

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

## 評価委員会での評価コメント

コロナ禍においても、多数の小学校の教育旅行、ホームステイ及び一般旅行者を受け入れており、マイクロツーリズムやグリーンツーリズム活動に取り組んでおり、特に県内及び市内の小学校の積極的な受入れは、地元の学校が地元のよさを学ぶことにもつながり、取組状況について評価できる。また、受入れに向けて地域会議、反省会、意見交換会、研修会を行い、新型コロナウイルス対策や体験時のリスクマネジメントに取り組むなど、実施体制の強化に取り組んだことも評価できる。しかしながら、コロナ禍の影響により、漁業体験のみ実施する学校が増加したことにより宿泊者数は目標を大きく下回ったため、総合評価としては低調とする。

## 目標達成に向けた指導・助言等

## ①インバウンドの誘致と県内（地元）の教育旅行の取組強化

県内、市内の小学校の積極的な受入れも非常に重要ではあるが、今後、更なるインバウンドの集客が期待されるため、好調であった一般旅行者のニーズがどのように功を奏したかを分析した上で、インバウンドに応用できるメニューの開発を目指すとともに、県内、市内の学校受け入れを持続的に行えるよう地元重視の連携体制を構築してはどうか。

また、日帰りでは味わえない佐渡の暮らしの魅力、地域資源を十分に活かしたプログラムの充実を図るとともに、一般旅行者向けの農山漁村体験メニューを厳選して、ミニ体験のようなものを用意し、インバウンドに対する情報発信を行い、インバウンドの誘致に取り組むことを検討してはどうか。併せて、インバウンドと国内旅行者が自然に交流できる場を作ることも検討してはどうか。

## ②観光客の多様性を図る取組

教育旅行（団体旅行）の誘致だけではなく、都市部の子育て世帯に対して、親子参加の食農教育や自然体験の機会を提供するなど、商品開発や受入体制を強化していくことにより、家族ぐるみの旅行者も取り込んでいくことを検討してはどうか。また、農村でのホームステイについては、その地域で生き生きと暮らしている人に接する機会を増やすなど、一般客やリピーター客を取り込んでいくことも検討してはどうか。

## ③実施体制の強化

協議会の主要メンバーについて、効果的なアイデアを生み出すため多様性の高いメンバー構成にするなど、実施体制を強化してはどうか。

## ④県外からの教育旅行の誘致

教育旅行の全てが佐渡市内や新潟県内の小学校となっており、地域課題の解決に取り組む全国各地の大学ゼミナールとも何らかのコンネクションを作るなどして、県外にも誘致の輪を広げてはどうか。

## 2. 低調と評価された要因

地域DMO（一般社団法人佐渡観光交流機構）を中心に、マイクロツーリズムやグリーンツーリズムの販売を行っているが、コロナ禍において、民泊を敬遠し、漁業体験のみ実施する学校も受け入れており、宿泊数が未達成である。

## 3. 目標達成に向けた方策

### ①インバウンドの誘致と県内（地元）の教育旅行の取組強化

一般旅行者やインバウンドの問い合わせが増えており、令和6年度において「能楽体験と地元商店での買い物」「農家料理と街歩き」「鬼太鼓体験と佐渡産弁当」などの体験がインバウンドツアーにて実施、小グループのインバウンドツアーでは、ゆったりとした時間での文化体験＋食事体験の依頼があることから、地域の体験＋食事提供者との連携を造成する。

### ②観光客の多様性を図る取組

令和5年9月に、新潟県内の大手銀行の福利厚生事業として、棚田での体験と昼食、トキに関する学習を組み込んだツアーを実施、同じ受け入れグループに、個人向けのツアーを実施。

### ③実施体制の強化

協議会の後継組織となる農泊・グリーンツーリズム部会において、多様な関係者に参加してもらうべく準備を進める。

### ④県外からの教育旅行の誘致

佐渡市の交流推進を行う課と連携・検討。

## 4. 改善状況

目標	地域の売上高	：	目標	532万円	実績	400万円	達成率	75%
	延べ宿泊者数	：	目標	640人	実績	152人	達成率	24%

指標	小学生の受入れ	：	目標	10校	実績	6校	達成率	60%	一般旅行者受入れ	：	目標	30人	実績	343人	達成率	1,143%
	インバウンド受入れ	：	目標	30人	実績	0人	達成率	0%	農村ホームステイ家庭	：	目標	50軒	実績	27軒	達成率	54%
	中学生の受入れ	：	目標	2校	実績	1校	達成率	50%	大学生の受入れ	：	目標	6校	実績	0校	達成率	0%

事業実施主体名:雪郷おかざわ地域づくり協議会

令和6年7月8日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
新潟県 上越市	R元	農泊推進事業 (雪国の大自然を活かしたここにしかない体験を展開する「住人が 観光資源を生産し、グローバルに発信する集落」の確立を目指す)	農泊整備事業 (古民家を宿泊施設として改修)

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

## 評価委員会での評価コメント

「雪郷の住民が地域の観光資源を自らグローバルに発信・提供できる集落」を目指し、地域資源を活用した宿泊・食・体験コンテンツの開発、インバウンドに対応する環境整備、情報発信等の体制整備に取り組むことができた。

また、年明けからコロナの沈静化とともに体験プログラムやイベントが順当に始動し、雪郷ロッジの宿泊数及び売上高は前年度比では伸びている。

しかしながら、暖冬の影響を受けたこともあり、これらは目標を大きく下回り、冬季以外の季節での体験メニューの開発・充実も必要なため、総合評価としては低調とする。

## 目標達成に向けた指導・助言等

## ①通年型観光客の誘致

春から秋の体験プログラムを開発することにより、通年型の観光客の集客を図ることを検討してはどうか。

## ②国内・インバウンド双方のニーズの把握

宿泊者数については伸び悩んでいるが、国内とインバウンドのそれぞれの利用者数の動向を見据えつつ、国内とインバウンド向け双方の潜在的な利用者のニーズを発掘することも検討してはどうか。

## ③クオリティの高いメニューの提供

現在の価格設定を維持する方針であるならば、質の高い体験メニュー開発、アメニティの改善、潜在的な利用者への訴求方法を見直すことを検討してはどうか。例えば、五右衛門風呂はオプションとしては良いが、近隣の温泉(日帰り利用)の提供も検討してはどうか。

また、冬季以外の観光客増加を図るためには、価格設定の見直しあるいは独自メニューの開発が必要と思われるが、農村での新しい暮らし方の一部を体験できるメニューを提供すれば都市部住民にも訴求できるのではないかと。例えば、地域農業との関係では、有機農業に取り組む農業者等との連携も検討してはどうか。

## ④更なるインバウンドの誘致

インバウンドの復活は良い兆しであり、数年おきには必ずやってくる暖冬に対応したイベントメニューを新たに用意することにより、インバウンドの確保に取り組んではどうか。

## 2. 低調と評価された要因

年明けからコロナの沈静化と共にインバウンドも含め人々が動き出し体験プログラムや体験イベントが順当に始動したが、暖冬の影響を受け急速に失速したことで実績が伸びなかった。冬以外の季節でのコンテンツの開発・充実が必要。

## 3. 目標達成に向けた方策

### ①通年型観光客の誘致

四季折々の里山体験ツアー（Lodgeで開催）、各プログラムを融合し、それぞれの分野のプロフェッショナルを招いた宿泊プログラムを開催。これにより、都会や海外からの観光客に対し、四季折々の自然体験、アドベンチャー活動、そしてITスキルの習得を通じた多様な体験を提供し、通年型の観光地としての魅力を高める。

### ②国内・インバウンド双方のニーズの把握

都会ですでに他ジャンルで成功している人とお客様を連動して誘致するプログラムの実施を行う。海外も同様に行う。

### ③クオリティの高いメニューの提供

地域の有機農業者と連携し、実際の農作業を体験するプログラムを提供。農作物の収穫や農薬を使わない栽培方法の紹介を通じて、参加者に農村の暮らしを体験してもらおう。季節限定の特別イベント（春には山菜採りと料理教室、秋にはキノコ狩りと収穫祭など、季節ごとの特別イベントを開催し、年間を通じて観光客を呼び込む取り組みを強化。

### ④更なるインバウンドの誘致

地元料理教室、酒蔵見学と試飲、芸術・クラフト体験（書道・墨絵体験）など観光客が自宅に持ち帰って楽しめる書道や墨絵のキットを販売。ブラシ、墨、紙などの基本セットを含み、使い方のガイドブックやオンラインチュートリアルリンクも提供し、良いものはSNSなどで、作品の保存と展示を行う。

また、参加者の作品を一時的に展示するスペースを設けることで、自分の作品を他の観光客に見てもらえる機会も演出する。

## 4. 改善状況

目標 地域の売上高 : 目標 917万円 実績 687万円 達成率 75% (ハード施設の売上高と同様)  
地域の延べ宿泊者数 : 目標 1,015人 実績 548人 達成率 54% (ハード施設の延べ宿泊者数と同様)

指標 イベント数 : 目標 2回 実績 2回 達成率 100% イベント参加人数 : 目標 525人 実績 471人 達成率 90%  
体験プログラム数 : 目標 9体験 実績 6体験 達成率 67% 体験プログラム参加者数 : 目標 399人 実績 315人 達成率 79%

事業実施主体名:山田地域都市農村交流協議会

令和6年7月8日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 富山市	R2	農泊推進事業 (協議会の体制強化、ワークショップの実施、協議会会員及び連携先の拡大、地域内観光資源の整理、研修会の開催、体験プログラムの開発)	

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

## 評価委員会での評価コメント

実施体制については、運営母体の活気があり、地域外の若者（相模女子大生等）も活動に参画しており、直売所（野菜等の産直売場）や飲食店（地元で栽培しているそばを使った蕎麦屋）は遠方からの訪問客だけでなく、富山市の都市部をはじめとする地元からの人気もあり、来場者数の目標はおおむね達成することができた。一方、売上高及び延べ宿泊者数については、閉館した温泉旅館「ふれあいの里ささみね」とコテージ「木MAMA」の替わりとして、地域に長期滞在者向けの古民家の貸付や教育旅行による民泊を計画するとともに、自費で古民家を改修した施設「雪つばき」を開設したが、宿泊するまでには結び付いていない状況であり目標を大きく下回ったことから、総合評価としては低調とする。

## 目標達成に向けた指導・助言等

## ①宿泊客の多様性を図る取組

古民家を改修した「雪つばき」は福祉的要素も整った魅力的な施設であり、NPO 法人ワーカーズコープによる運営もしっかりされており、大学ゼミとの連携もあることから、福祉的利用を含めた長期滞在型、療養型等の付加価値を高めていながら、観光学部を有する大学や高校のゼミ合宿、教育旅行など、新たな旅行客の誘致を検討してはどうか。

## ②実施体制の見直し

地域内の温泉旅館とコテージが閉館となり、実施体制及び宿泊者向けの対応については計画の見直しが必要であり、地域内のメンバーを中心としつつ、地域外の団体との連携による体制の発展的な見直しを行うとともに、協議会の主要メンバーについては、効果的なアイデアを生み出すために多様性の高いメンバー構成に見直すことを検討してはどうか。併せて、多様な住民がそれぞれの意向・能力・知識・経験などに応じて、さまざまな形で関与できる仕組みづくりを検討するのも一考であり、例えば、NPO法人（ワーカーズコープ）が事務局（中核法人）の役割を担っているのであれば、その強みを生かして、農福連携型の体験を企画することも検討してはどうか。

## ③教育旅行客の拡大を図るための行政との連携強化

相模女子大のゼミの受入れや高崎経済大教授とのコネクションを得ることができたのは収穫であり、更なる各大学との関係をさらに広げられるよう、行政とも連携強化を図ってはどうか。また、都会の子供に田舎の暮らしをアピールする活動も検討してはどうか。

## 2. 低調と評価された要因

研修会等や郷土・伝承料理講座を通じた食メニュー開発等に取り組む一方でコロナ禍により、計画どおりの取り組みができていない。計画通りに実施できなかった取り組みについては、今後も実施するとしているが、今後、目標達成に向け、地域の構成員とともに魅力的な料理メニューの開発、魅力的な体験コンテンツの開発が必要。特に宿泊については、コロナの影響等により山田地域にあった宿泊施設が廃業となってしまった。山田地域の魅力を引き出す新たな宿泊スタイルの確立が必要。

## 3. 目標達成に向けた方策

### ①宿泊客の多様性を図る取組

今年度は新たに富山大学と連携を行い「雪つばき」にて、農泊を行う予定である。福祉的利用を含めた長期滞在型、療養型について検討を行う。

### ②実施体制の見直し

収穫体験においては、富山市内の3校の支援学校と連携を行う。障がい児、障がい者、その家族、支援学校の教師が主だったメンバーとして参加する仕組みとする。また、富山県農林振興センターOBや県外から山田地域へ移住している地域おこし協力隊も協議会のメンバーとなり、メンバー構成に幅を持たせる。

また、山田地域内において、報恩講の料理ができる人が2~3人、毎年自宅で味噌を作っている家も3件位ある。それらを含めて農泊体験とし、体験を通じて、次世代にそれを繋げていくことも、地域が持続していくためには、必要なことと考えている。山田地域内の殆どの家庭が庭の片隅で野菜を育てている。都会の人から見れば魅力的と感じ農泊に結び付くのではないかと、次年度は間口の広い農泊体験を企画することも範疇に入れる。

### ③教育旅行客の拡大を図るための行政との連携強化

富山県農泊推進ネットワーク会議に参画し、行政との連携強化を目指す。

## 4. 改善状況

目標 地域の売上高:目標 25,618万円 実績 5,834万円 達成率 23%  
延べ宿泊者数:目標 26,404人 実績 2,148人 達成率 8%

指標 体験プログラム数:目標 30体験 実績 6体験 達成率 20% 体験プログラム参加者数:目標 8,250人 実績 116人 達成率 1%  
イベント回数 :目標 8回 実績 7回 達成率 88% イベント参加者数 :目標 5,300人 実績 910人 達成率 17%  
直売所来場者数 :目標 37,310人 実績 26,000人 達成率 69% 飲食店来店者数 :目標 25,686人 実績 9,631人 達成率 38%

事業実施主体名:南砺市(五箇山合掌の里活性化協議会)

令和6年7月9日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 南砺市	R2	農泊推進事業 (世界文化遺産を有する上平地域における人口減少への課題に対応するため、農泊推進における観光誘客を行い、外貨を稼ぐ能力を向上し地域全体の所得向上を図る。)	農泊整備事業 (古民家を宿泊施設として改修)

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

## 評価委員会での評価コメント

昨年度に引き続き、夏と秋のコンテンツ造成を中心に活動しており、トレッキングコースの整備及び農作業を中心とした体験メニューを取り入れている。また、地元の取れたて食材で食事を提供した結果、飲食客数は目標を大きく上回ることができた。しかしながら、宿泊数や体験参加者数については、まだまだ利用者の認知度が低く、目標を大きく下回り、更なるPR活動、利用者に喜ばれる体験コンテンツの開発・提供を行う必要があるため、総合評価としては低調とする。

## 目標達成に向けた指導・助言等

## ①インバウンドを中心とした新たなニーズによる観光客を誘致するための観光コンテンツの強化

コロナ禍の中、農泊事業に取り組んだことにより、五箇山が有する精神文化の価値の再認識が行われた。特に、インバウンド(欧米人)の付加価値は、コロナ禍が終息を迎え増大する人的流動を活かす新たなチャンスであるが、加えて、精神文化に特化したプログラムの探求、学術的背景を伴う観光コンテンツの強化を図ることにより、インバウンドのみならず、国内、県内の小・中・高校生のための教育旅行の誘致にも効果的であり、また、観光学部を有する大学や高校のゼミ合宿、教育旅行なども拡大の可能であることから、これらの新たなニーズの観光客誘致を検討してはどうか。

## ②宿泊客が利用しやすい体験メニューの強化

体験プログラム(数、参加者数)が伸び悩んでいる一方、飲食客数や宿泊者数は伸びている。宿泊客は比較的滞在時間も長く、体験プログラムの潜在的な利用ニーズも大きいと思われるので、インバウンドの集客増加と併せて、宿泊客が参加しやすい体験プログラムを強化することを検討してはどうか。併せて、農作業体験については、有機農業に取り組む農家での体験も検討してはどうか。

## ③プロモーション活動の強化

合掌造り集落の価値を歴史や生活、産業など各視点からアピールするストーリーを構築し、国内外に発信する手立てを検討してはどうか。

## 2. 低調と評価された要因

まだまだ利用者の認知度が低く、今後とも宣伝、利用者に喜ばれる体験コンテンツの開発・提供を行う必要がある。

### 3. 目標達成に向けた方策

- ①インバウンドを中心とした新たなニーズによる観光客を誘致するための観光コンテンツの強化  
体験と食事も合わせた、滞在時間が増える様な宿泊の誘致を行う。また、インバウンドに対しては文化的体験のみならず、トレッキングや川遊び等さまざまな事に興味を持つ事から改善するものは改善し、幅広くコンテンツの強化を図る。
- ②宿泊客が利用しやすい体験メニューの強化  
所要時間の短い体験や予約せずに宿泊客の依頼があれば直ぐに行える体験プログラム等を検討する。  
有機農業はまだ五箇山での農家が少ないため、受け入れが困難で有る。そこで、有機にこだわらず農業公社と連携して農業体験を対応する。
- ③プロモーション活動の強化  
富山県の農泊推進ネットワークに加盟し、ツーリズムEXPOジャパンの富山県ブース内で宣伝を実施。南砺市観光協会やグリーンツーリズムとやまと連携を図り国内外に発信、アピールする。

### 4. 改善状況

目標	売上高	: 目標 400万円	実績 249万円	達成率 62%	(ハード施設)
	延べ宿泊数	: 目標 666人	実績 406人	達成率 61%	(ハード施設)
指標	体験プログラム数	: 目標 16個	実績 20個	達成率 125%	体験プログラム参加者数: 目標 740人 実績 383人 達成率 52%
	飲食客数	: 目標 293人	実績 480人	達成率 164%	

事業実施主体名:アルペリゴディフーズ新湊を拓く協議会(旧:射水市海街活性化推進協議会)

令和6年7月8日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 射水市	R2	農泊推進事業 (射水市有数の観光スポットである内川周辺地区において、富山湾の“魚”を中心とした滞在・体験型プログラムの造成を図り、交流人口・滞在時間増を目指す。)	

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

## 評価委員会での評価コメント

今まで体制については宙に浮いた状態での活動となっていたが、古民家宿も完成し、自治体、協議会、漁師や農家の方々とのワークショップを開催し、地域の関係者と密接な関係を作っていくことを心掛け、少数であっても志を共にできる主体がまず連携し、成功モデルを作っていた結果、富山湾の魚を題材とした体験プログラム等を開発し、プログラム提供者数が倍増することができた。しかしながら射水市役所との連携も進めてはいるが、売上高や滞在者数などは目標を大きく下回り、地域内関係者の連携の強化や具体的な戦略をマーケティングの中心に据え、魅力的な体験プログラムの開発・磨き上げが必要なため、総合評価としては低調とする。

## 目標達成に向けた指導・助言等

## ①「景観」と「海の文化」の双方向的な戦略の具体的検討

ベネチアの漁師まち「ブルーノ島」を思わせる景観を有する当地は、景観だけでなく海の文化を活かした戦略が有効であること、様々な意見の異なる主体の連携については、全体を統合していく組織作りを目指すのではなく、少数であっても志をともにできる主体がまず連携し成功モデルを作っていくことを検討してはどうか。

また、バリアフリーな農泊環境を目指すのであれば、独自性を打ち出し、具体的な戦略（ハード整備のみならずソフトの工夫）をマーケティングの中心に据え、直接ニーズを持つ当事者の組織に働きかけを行うなど双方向のアプローチを働きかけるとともに、観光学部を有する大学や高校のゼミ合宿や教育旅行など、新たな観光客の集客の強化についても検討してはどうか。

## ②体験メニューと利用者ニーズの齟齬分析と民泊の活用による宿泊増につながる取組の強化

体験メニューの開発や磨き上げの取組は順調に進んでいるように見受けられるが、利用者の増加に結びついていない面があり、メニューと利用者のニーズにギャップが生じていないか確認するとともに、Airbnbとの連携をはじめとする個人の民泊事業者にも間口を広げるなど、宿泊増につながる取組強化も検討してはどうか。

## ③先進的な事業者との連携強化

農漁業とのコラボについては、先進的な事業者、例えば、有機農業に取り組む農業者や漁業資源の保全に力を入れている漁業者との連携強化について検討してはどうか。

## 2. 低調と評価された要因

今まで体制については中に浮いた状態で活動となっている。漁師や農家の方々とのワークショップを開催し、地域関係者と密接な関係を作っていくこととしている。射水市役所（観光定住課、港湾課、建築住宅課が中心となる）との連携も進めているが、目標の達成となっていない。地域内関係者の連携の強化、魅力的な体験プログラムの開発・磨き上げが必要。

## 3. 目標達成に向けた方策

### ①「景観」と「海の文化」の双方向的な戦略の具体的検討

「景観」では海越しの立山連峰の世界的に稀有な景観を楽しめる、観光船等の趣向を凝らし、「海の文化」では、ベネチア（内川限定）よりもナポリとソレント半島、カプリ島の様な世界的な観光を富山湾と能登半島、能登島に相当させる様な、観光資源化を新協議会で策定し、海の農泊での広域農泊の先鞭をつける様に対応する。富山県の持つ「海富山」の地域性を鑑み、山間地の農泊群との協業等も具体的に対応する。

### ②体験メニューと利用者ニーズの齟齬分析と民泊の活用による宿泊増につながる取組の強化

Airbnbとの共同セミナーを開催。アルベルゴディフーズ（AD）の実践と周辺民泊事業者との連携し、新協会において具体的に対応する。

### ③先進的な事業者との連携強化

食香バラを射水市で栽培している企業Ownerとは農泊関連で新協会において対応。同Ownerが「匠の里」とのコラボを検討。漁業資源の保全（白エビ）を積極対応している観光漁業のしるえび倶楽部と協議。定置網観光を策定、具体的に如何実行するかを決定する。漁協との協力においては、朝競りの特別見学、競り前に朝食用魚介類を選定、漁港前の店や内川の店（きときと食堂、世楽美他）で料理して貰うなど、朝とれ特別朝食に取り組む。

## 4. 改善状況

目標 地域の売上高 : 目標 1,440万円 実績 7,630万円 達成率 530%  
地域の延べ宿泊数 : 目標 360人 実績 718人 達成率 199%

指標 滞在者数 : 目標 950人 実績 51,118人 達成率 5,381%  
体験プログラム提供者数 : 目標 5団体 実績 5団体 達成率 100%  
Webサイトからの体験プログラム申込者数 : 目標 24人 実績 5人 達成率 21%

事業実施主体名:矢田町スローツーリズム推進協議会

令和6年7月8日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
石川県 七尾市	R3	農泊推進事業 (観光客が訪れない矢田町で築100年以上の茅葺き古民家を宿泊施設として再生させ、新たな観光拠点、情報発信拠点として活用し、地域の活性化を目指す。)	農泊整備事業 (古民家を宿泊施設として改修)

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

## 評価委員会での評価コメント

令和3年度の施設整備事業において、茅葺き屋根の改修を行うための茅が入手できず工事が延長となったことに伴い、宿泊施設の開業が令和4年夏季から令和5年4月にずれ込み十分な集客を行うことができなかったことから、売上高及び宿泊数などが目標を大きく下回り、今後、利用者のニーズを的確に把握・検証し、引き続き、魅力あるコンテンツ開発を協議会構成員とともに進め、課題整理の徹底をする必要があるため、総合評価としては低調とする。

## 目標達成に向けた指導・助言等

## ①事業効果の検証・課題整理

開業の遅れは、茅葺き屋根のスケジュールの遅延によるものであり、令和5年度の宿泊施設オープン以降は、受入れ体制の整備やメディアでの広報活動も積極的に行われ、専門家の指導や先進地視察も実施しており、これらで得られた知見を今後の事業で検証し、課題の整理を徹底しながら事業を進めてはどうか。

また、体験メニューの開発は順調に進んでいるように見受けられるが、利用者の増加に結びついているかどうか定期的にチェックを行い、メニューと利用者のニーズのギャップが生じていないか検証してはどうか。

## 2. 低調と評価された要因

令和5年度に入り宿泊施設がオープンし、メディアに取り上げられる等の効果により、現在は順調に予約が入っているものの、今後、利用者のニーズを的確に把握し、引き続き、魅力あるコンテンツ開発を協議会構成員とともに進めていく必要がある。

### 3. 目標達成に向けた方策

#### ①事業効果の検証・課題整理

宿泊客に体験プランについておすすめをする際、同時にヒアリングを行う。

- ・ やってみたい既存メニュー
- ・ 既存メニュー以外で拡充してほしい内容

(検証結果)

- ・ 取り組みの結果、五右衛門風呂やかまど炊飯体験など生活に根差した体験は好評で希望者も多い。
- ・ 加工体験などは利用者がほとんどいない。
- ・ 拡充してほしい内容についてもほとんどの利用者は明確なイメージを持っていない。まずは古民家を楽しみたいというマインド。
- ・ ハードルが高い加工体験よりも、生活の中で自然に挑戦可能なプランを増やす。加工体験メニューはリピーター向けと位置付け、利用率向上のために、リピーターを増やす方法を考える。

### 4. 改善状況

目標 地域の売上高 : 目標 468万円 実績 60万円 達成率 13% (ハード施設の売上高と同様)  
地域の延べ宿泊数: 目標 288人 実績 47人 達成率 16% (ハード施設の延べ宿泊者数と同様)

指標 延べ体験メニュー利用者数: 目標 253人 実績 84人 達成率 33%  
体験プログラム数 : 目標 5体験 実績 7体験 達成率 140%

事業実施主体名:秋葉区まちづくり協議会

令和6年7月9日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
新潟県 新潟市	R4	農泊推進事業 (宿泊、体験、食の3つの柱を立てることにより、持続可能な農泊推進地域としての素地を創る。)	農泊整備事業 (古民家を宿泊施設として改修)

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

<p>評価委員会での評価コメント</p> <p>協議会結成時においては構成員間の参加意欲に温度差があったが、事業を通じて、協議会構成員以外にも興味を持った飲食店や事業者も現れるなど、農泊の気運が高まったことは重要な成果である。しかしながら、農泊宿泊施設（スロウハウス）の受入れは令和5年度の秋以降としており、売上高及び宿泊者数ともに実績に結びついていないため、総合評価としては低調とする。</p> <p>目標達成に向けた指導・助言等</p> <p>①宿泊施設オープンに向けての取組</p> <p>今年度は利用者の増加に結びついていないかどうか定期的にチェックを行い、観光コンテンツと利用者のニーズのギャップが存在していないか検証するとともに、秋以降の利用者・宿泊者の増加に向けて、早い段階から想定しているターゲット層に対して、情報発信することを検討してはどうか。</p> <p>また、宿泊施設のオープン準備も含めて、体験メニュー化することも検討してはどうか。</p>
---

## 2. 低調と評価された要因

<p>農泊宿泊施設（スロウハウス）は、令和5年度に改修を行い宿泊者の受入れは令和5年度の秋以降としており、売上高及び宿泊者数ともに実績に結びついていない。観光コンテンツと利用者のニーズのギャップが存在していないか検証、宿泊施設オープンに向けて体験メニュー化の検討が必要。</p>
---

### 3. 目標達成に向けた方策

#### ① 宿泊施設オープンに向けての取組

新しい施設ということもあり、最初は地域など近い範囲から、次第に県外からの利用者に周知を図る。徐々に広い範囲を対象としたリサーチを行う。当施設の有する「芸術性」という特徴を活かして広報を行う。ホームページや広報の仕方、施設の設えも少しずつ変化させる。

また宿泊施設開業には地域の人々も多く巻き込み、それが開業前からのファン獲得にも繋げ、宿泊利用者増を図る。

### 4. 改善状況

目標 地域の売上高 : 目標 107万円 実績 130万円 達成率 121% (ハード施設分の売上を除く)  
地域の延べ宿泊数 : 目標 648人 実績 153人 達成率 24% (ハード施設の延べ宿泊者数と同様)  
宿泊施設の売上高 : 目標 499万円 実績 689万円 達成率 138% (ハード施設分)

指標 食事メニュー数 : 目標 10個 実績 35個 達成率 350% 体験プログラム数 : 目標 12個 実績 7個 達成率 58%  
HPアクセス数 : 目標 3,650数 実績 4,200数 達成率 117% 飲食売上高 : 目標 342万円 実績 559万円 達成率 163%

事業実施主体名: 岐山半島渚泊推進協議会

令和6年7月9日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
石川県 七尾市	R3	高度化促進事業 (岐山半島ならではの地域資源を活用した渚泊で実現するインバウンド誘客)	

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

## 評価委員会での評価コメント

岐山地区の強みは、ここにしかない「本物」の漁業体験ができること、また、体験を提供する魅力的でカリスマ性を持った「人」がいるということであり、担い手の「人」も含めて地域資源を最大に生かしながら、国際交流協会と連携したインバウンド戦略が成功しつつある。しかしながら、本物であるがゆえに情報発信のきめ細かさや受入対応が粗削りであるなどの課題を併せ持っており、押さえるべきポイント（インバウンドの受入条件等）を押さえられておらず、また、コロナによる影響もあり、売上高及び宿泊者数ともに実績が結びついていないため、総合評価としては低調とする。

## 目標達成に向けた指導・助言等

## ①インバウンド向けのプロモーション活動や受入体制整備の強化

国際交流協会との連携によるインバウンド戦略が成功しつつあるが、戦略を打ち出す上で情報発信等のプロモーションは留学生とは別の専門的ルートの開拓を検討してはどうか。また、宿泊施設やガイドなどのインバウンド対応の課題について、早急に具体的な対策を講じてはどうか。

## ②インバウンド（FIT層）の誘致

インバウンドの集客増加に向けて、今後は国際交流協会との連携による団体向け対応も維持しつつ、個人や少人数グループ向けの対応強化が必要であり、特にSNSの活用については想定しているターゲット層に対してどの程度訴求できているのか、情報発信全般については体験メニューの提供方法や情報提示方法について潜在的な利用者層のニーズとギャップは生じていないか、点検することを検討してはどうか。

## 2. 低調と評価された要因

本物であるがゆえに、情報発信のきめ細かさや受入対応が粗削りであるなどの課題をあわせ持っている。今後は、本物の良さをしっかりと打ち出しつつも、観光事業者として、おさえるべくポイントを協議会で改めて点検し、より持続的な渚泊事業が実施できるよう尽力が必要。

### 3. 目標達成に向けた方策

①インバウンド向けのプロモーション活動や受入体制整備の強化

情報発信等のプロモーションは、これまでの留学生のほか、旅行会社との連携を検討。宿泊施設やガイドなどのインバウンド対応については、スポットWi-fiの導入を検討し、体験施設にQRコードを設置し多言語での説明ができるよう対策を進める。

②インバウンド（FIT層）の誘致

インバウンド（FIT層）の誘致に向け、新たにSNS担当者を設ける。今後、情報発信の手法について旅行会社やインフルエンサーの指導を仰ぐ。

### 4. 改善状況

目標 インバウンド売上高 : 目標 160万円 実績 54万円 達成率 34%  
インバウンド延べ宿泊数 : 目標 100人 実績 36人 達成率 36%

指標 インバウンド定置網乗船体験 : 目標 50人 実績 25人 達成率 50%  
インバウンド乗船・漁師飯単価 : 目標 6,000円 実績 5,000円 達成率 83%  
インバウンド和船、ろ漕体験者数 : 目標 50人 実績 11人 達成率 22%  
インバウンド和船、漁村飯単価 : 目標 6,000円 実績 5,000円 達成率 83%

事業実施主体名: 社会福祉法人秀愛会

令和5年11月21日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 富山市	R4	(農福連携型)農福連携支援事業	(農福連携型)整備事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①商品開発の実施

近年注目されている海藻アルギットニラを活用し餃子を製造する事業に取り組んでおり、社会的な注目度は大きいと思うので、今後も継続して取り組んでほしい。

②地域活性化の取組による総合的な社会貢献の実施

製造工程における雇用の創出だけでなく、耕作放棄地対策、イベント出店や販売を通じた地域の活性化など、総合的な社会貢献にも取り組んでほしい。

③障がい者への配慮

障がいを持つ人の雇用・就労においては、働く人のウェルビーイングの視点を以って取り組んでほしい。

2. 低調と評価された要因

施設整備に係る資材調達の遅れを予測し、交付決定前着手届を提出した上で、当初計画より工事の着工を早めたが、結果として、工事完了時期が大幅に遅れたことにより、障害者等の雇用・就労人数、売上交流人口が目標を大幅に下回った。

### 3. 目標達成に向けた方策

#### <障害者等の雇用・就労>

特別支援学校の事業説明会への参加や障害者就業・生活支援センター等と情報提供と共有化を図り、農業、飲食業を希望する障害者等の雇用を目指す。また、作成した利用者（障害者等）向けの作業マニュアルを見直して、作業の効率化を図るとともに、利用者（障害者等）個々の支援ができるようにする。

#### <商品開発>

管理栄養士の意見を聞きながら進めている。野菜餃子のレシピは完成し、販売を始めている。にら餃子については改良の余地はがまだあるので試作検討を重ね、商品化を行うこととしている。

利用者（障害者等）が携わる加工作業について、障害の特性に合わせた配置、支援を検討しており、徐々に作業効率の向上がみられる。今後は、一連の作業のマニュアルを整備し利用者（障害者等）のペースで作業が行えるようにする。また、新たな利用者（障害者等）でも対応できるようマニュアルを整備する。

#### <販路の確保>

既存取引先と個々に対応し、現状を維持しつつ新規取引先を開拓する。

また、餃子専門店のホームページ開設とSNSによる情報発信を行っている。

#### <地域との連携>

イベントに出店し、利用者（障害者等）と支援者が一体となり参加することで地域交流を図り、また、利用者（障害者等）が自ら製造した商品を販売することで、やりがいの醸成につなげる。

イベント出店等を通じて地元住民、商工会、JA等に農福連携の取組を周知する。

近隣の耕作放棄地を借用し、野菜の栽培を今後も継続して行っていく。

### 4. 改善状況

特別支援学校、障害者就業・生活支援センター等との情報交換や就業体験を行い雇用促進に勤め、利用者（障害者等）の雇用に至っている。

販路の確保については、県内JA直売所に加え、県内外の飲食店、生協と取引を行い、少しずつ販路の拡大して売上を増やしている。また、イベントに出店して、農福連携を通じて他の団体と情報交換を行い地域の交流に勤めている。